

.....編集後記.....

◆つくばでは数年振りに雪が積もりました。積雪量は10cm程度でしたが、雪に慣れていない我々には大変で、雪掻きで腰を痛めた人もいたようです。我が家の猫が不思議そうに雪景色をみていましたので、外に出してやりましたが、前足で雪を触っただけで逃げ帰ってきました。我が家の猫を苛める野良猫も現れませんでした。「初雪や 猫の足跡 梅の花」という俳句がありますが、我が家の愛猫の行動を観察するかぎり、この句は作者の想像の産物かもしれません。もっとも、現代の猫が昔の猫に比べて軟弱になっているかどうかを検証する必要がありますが、「現在は過去への鍵である」というライエルの言葉を信じている地質屋の私には「猫は雪の上を歩かず、コタツで丸くなる」のが正しいと結論せざるをえません。最近の地質科学者は山歩きが得意ではないようですが、発表した論文が「雪の上の猫の足跡」でなければ良いかと心配しています。

◆さて、中尾氏のエッセイの冒頭にある地質調査所が繊維関係の検査所と間違われた話は数多くあるようで、私の聞いたところでは反物の行商人が本物である証明書を発行してくれと訪れたことがあるようです。地質調査所は専門家には良く知られていますが、一般社会では認知度は昔も今もあまり変わらないのではないかと心配になります。

◆地質情報は社会生活にとって重要な情報ですが、その有効性は地域的なものだと考えられます。地質調査所では、若手研究者からの提案を取り上げ、地方地質情報展を毎年開催することにしました。昨年は福岡市で九州地質情報展を行いました。その顛末記が斎藤氏によって紹介されています。地質図の読み方も宮地氏等が紹介していますので、地質図の解説の一助となるでしょう。このような広報活動を積極的に展開すれば布地の研究所と勘違いされることはなくなるでしょう。本年9月には甲信越地方について行う予定です。

◆鹿野氏による富田城の立つ月山の話はテレビドラマの舞台でしたので、興味深いものがあります。尼子一族の繁栄には地質学的背景があったことに、ロマンが感じられます。ご一読ください。

◆長期間にわたって多くの機関で地質調査がなされてきましたが、多くのデータが死蔵されています。このような状況は国損で丸井氏はそれらのデータベース化の研究をしており、その進捗状況を紹介してくれました。吉井氏等は鉱物資源データベースについて紹介しています。是非、ご活用ください。

◆石原氏は花崗岩については世界的に著名な学者です。今回、オーストラリアの花崗岩と鉱床について大作を書いて頂きました。大変参考になると思います。(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第522号	1998年	2月号
	定価¥785	(本体価格¥748)	〒実費
1998年2月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		〒102-0073
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	趣向局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。